

問

酪農経営を支援するための政策は

町長

自給飼料確保推進補助金を制定

採草地の貸付状況は

問 町営牧場にある広大な草地は育成牛のためものと認識しており、一部の採草地を酪農家に貸付していると思うが、その面積と貸付戸数は。

また、町営牧場の草地を拡大することはできないか。

町長 町営牧場の草地面積は423haで、そのうち採草地は75haあり、5戸の酪農家に貸付している。

草地造成は、多大な経費が掛かることから現状では困難である。

採草地の利用

可能な面積は

問 訓子府牧場の採草地の貸付希望者が今の5戸から10戸に増えたと仮定した場合に、牧場内の育成牛用の草地を採草地として貸付する余裕はあるのか。

町長 採草地として利用できる草地面積には限りがあるため、75haが限度で、5戸の酪農家に全て貸付している。

採草地の貸付は、毎年4月に訓子府町酪農振興会を通じて募集を行い、希望のあった酪農家と採草地の利用箇所と面積を協議して決めており、今後同様に貸付する。

牧草とデントコーンの種子代を助成

問 酪農経営の情勢は厳しく、全国で生乳を出荷している5500戸の酪農家の内、昨年度の1年間で150戸が廃業した。

今年さらにも多くの酪農家が廃業を選択せざるを得ない状況と分析予測されている。

訓子府町の酪農家35戸も同じように経営は厳しく、一日一日が不安の中にある。

国・道・JAと協議しながら経営支援に向けた政策について精力的にお願いしたい。

また、訓子府町独自にできること、さらに私たち町民が酪農家を応援できることは何かないのか。みんなで協力できる手立てを考えたいくべきだと思いが考えは。

町長 酪農家をめぐる情勢は非常に厳しく、酪農を守るための政策は、JAや酪農振興会とも十分協議しながら国・

道への要請活動を積極的に進めていきたい。

今回の補正予算では、新たに牧草地の簡易更新やデントコーンの面積増に対して種子代助成を行うことにした。

自給飼料確保推進事業補助金を制定したので、そのことを周知しながら酪農家への支援を推進していく。

また町民みんなで酪農家を応援する政策は、牛乳の消費拡大運動などの展開方法を農協と協議しながら進めたい。

おの 大野 よしひろ 良弘 議員

酪農家を
みんなで応援しよう



牛を守り育てよう

このほかに「空き店舗の活用及び不良空き住宅への対応について」「求人情報に関するハローワークとの連携について」の質問をしました。

